

公益社団法人粉河納税協会会長賞



よりよいまちづくりへ

高野町立高野山中学校 三年 宮崎 楓奈

私の住んでいる町では、町に入る観光客から入山料をとる「入山税」を導入するということが発表された。私は、和歌山県高野町の高野山というところに住んでいる。

高野山は二〇〇四年に世界遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として登録された。そのこともあってか、普段から観光客の方がたくさんこの町に訪れている。さらに、私が生まれてからピーク、つまり、紅葉シーズンの十月下旬から十一月くらいの時期には、車も人も目が回るくらいたくさん観光客がこの町に訪れている。

私が「入山税」を高野山で導入するという話をはじめに聞いたとき、観光客の人気が高野山に入るだけでお金を取るというのは、この町を特別化しているようで少し嫌だなと思った。けれどもいろいろ調べていくうちにやはり「入山税」は必要だと思うようになつていった。

まず、高野山が「入山税」の導入を発表した理由はオーバーツーリズム対策のためだそうだ。オーバーツーリズムとは観光客が観光地に過度に集中することで環境や地域に悪影響を及ぼす現象のことで、この状態が高野山で続ければ、高野山にさまざまな悪影響が及ぶということだ。

確かに町中にゴミが落ちていたり、整備がままならないなど、よくない面をたまにみかける。

こういうところが「入山税」を導入することによって改善されるのであれば、そちらの方がいいと思った。高野山を訪れる観光客は、高野町全体の人口の約五百倍になる。やはり、よりよい町をつくつたり保つたりするためには、「入山税」を導入するべきなのだと思った。

日本内でも観光地に訪れるときにかかる税金が導入されていたり、導入が検討されているところがいくつかある。観光地をよりよく残していくために他の都道府県でもいろいろと考えられている。

これらを踏まえて、「入山税」がこの町をよりよくしていってくれると願っている。けれども、「入山税」以外にもよりよいまちづくりをすることはできると思う。それには一人一人にできることがあると思う。

それを一人一人がよく考えて、町の負担、町民の負担、観光客の負担、いろいろなものを減らしていくことが大事なのだと思う。

いろいろな力がいろいろな所で働いてよりよい町になつて、いってほしい。だから、自分もこの町の歴史や文化を守つていく方法をこれから考えてみようと思う。